（廿七日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料二行五十錢指定廿錢増
發行兼編輯印刷人 遊沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

やまのうへ　吉川すみ

夏の日の午後のやまの上
森影にしばしいこへば
ほゝを吹く冷たき風は
さゝやける君が聲かや
見下せば街のあたりは
紫のけむりたち込め
君が住む遠きあなたは
陽の光はげしく照りぬ
目を止じて目をとじて
しばし我れ
一人なる山の上
一人なる森影

亡き友佐川まさ子の君へ

在りし日は全ての人に愛でされし
いと美しき君にてありしが
ハイネの詩好み給へる君なりき
悲しからずや今は世にあらず
そのかみの君が給へるたますさの
たどけたるさまなほ悲しけれ
父あらず母あらずとて涙ぐむ
淋しき性の君なりしかな
手を取りて共に泣きたる事もありき
かの送別會の夜のひとゝき
我れは姉、君は妹よとのたまひし
優しき人よみたまいづこに
岐阜提灯の淋しく光り君が靈の
宿るときけば涙流るゝ
君が靈いづこにかありて我を呼ぶ
さまよい出でぬ夏のくれがた

貴女へ

名前もおんなじ
着物もたんなじ
ふたありは姉妹になりませうつて
約束したのに……
私は十九の姉さん
貴女は十八の妹よと
たつしやつた
貴女だつたのに……
あゝ消ゑていつた
貴女のたましいよ
空遠く／＼
こんなに泣いてゐるのに……
消ゑていつた人々のたましいを
まつる日がきた
貴女よ
どんな言葉を言ひかけたら
貴女のたましは
答へてくれんでせう？

平町南町 **大和田醫院** 電話一七〇番

農民藝術に就て
うしをくらた

農民藝術は農民自身の手で作らねばならぬ――私は恐らく最も早くから此の主張をもつてゐる。專門藝術家の手によつて作られたものは農村藝術や郷土藝術ではあり得るかも知れないが、私の云ふ農民藝術ではない。

農村藝術と云ふのは、地方民諸地方手工品、その他の地方々々から生じた藝術を云ふので、未來に於ては藝術が專門家の手を離れて庶民一普に歸するから、その地方々々から各色彩階調を異にした戯曲、小説の類も出て來る樣に思ふ

◇

藝術はその地方々々の特色（廣く云へば國民性）を先づ第一に持つてゐなければならない。

これを廣く考へればロシヤ文學にはロシヤ文學の特色があり、イギリス文學にはイギリス文學の特色があると云ふことになるが、更にこれを狹く考へて行くと一國文化の中にも各その地方々々によつて異つた特色を持つてゐなくてはならないと云ふ結論になる。即ち風土記的特色を持つた物でなくては眞によい物ではないと云ふことになる。特色の濃いものであつてこそ、それが却つて多數の心を打つのであつて類形が多くの人の心に訴へないのは誰も知つてゐることである

◇

これを實地について更に分りやすく云つて見ようか。

藝術が風土記的特色を濃くもつたものほど勝れたものであると云ふ前述の理屈は或る種の藝術が其の發生の土地から他の土地に移し植ゑられた場合その優秀性を失つて了ふと云ふ實際について逆に證明されるアイルランド文學のにせ物が近頃處々に現はれてゐるが、にせ物はやはり本物よりも魅力がない。日本について云つても義太夫か常盤津その他の藝術は、東京と大阪の間に移植されたゞけでも大變な價値の相違がある。やはり藝術は其の發生地によつてのみ大に繁榮するのであることゝなつた土地の土壤へ移し植ゑられた場合、必ず多少は勢ひをそがれるのである。

◇

前述の如く私は藝術が少くとも未來に於ては專門家の手をはなれて、かの萬葉時代に於て誰でも詩人でつたやうに、いや、あれよりもずつと廣く一普庶民の所有に歸することを信じてゐる。その時に於て百姓の皮をかぶり百姓に化てゐた迄の專門家は、化けの皮を剝かれ、農民は己の所有物を――農民藝術を彼等の手から取り戻すであらう。

そしてその農民藝術は各發生の地即ち――故郷に歸つてより盛な繁昌を見るであらう。

その時の來るまで一普農民は他の不便を忍んでとは云へ妥協なく己の土地より發生した藝術を養ひ育て――かつまた己の土地から其の土壤にふさはしい藝術を生んで行かねばならないと思ふ。

明日の吉凶

新暦八月二十八日　舊暦七月十四日

▲一白 我を惡むこと德行より大なるはなし勉めよや▲二黒 金錢出ることあれども又大に入り來る日▲三碧 引立てあれども敵を受ることも多し▲四緑 十分自信を以て進むときは何事も通達す▲五黄 氣隨に振る舞ふなかれ貫貞なれば引立てらる▲六白 物を七分まで遂し跡三分にして惱みある日▲七赤 苦勞を仕拔きても効果はその割には薄き日▲八白 內に多少の行違ひありとも大体順調に運ぶ▲九紫 燃ゆる如き熱誠を以て進めば諸事通達すべし

講談
幕末秘帖 狂怒乱心 (27)
渡邊默禪作　宮野歌春畫

挑弄はれて雪江はぽつと紅くなつた

「いゝわ、そんな、そんな」と首をふつて躍起になつて「いやらしい手紙なものかね、こないだのねだ禮にちよつと書いたゞけぢやないか、それにアノ、少々差上げたい物もあるから、一緒に先さまへ屆けて貰はうと思つてた頼みするのに、そんな風に勸繰られちやア妾迷惑だわ、最うよござんすお頼は爲ませんよ」

つんと拗ねて戻りかけたが歩くのではなかつた

「あゝモシ、雪江さま」と與市は慌てゝ呼止めて「爾う腹を立てなすつちやア困ります、今のは眞の戯談、ハハ……失禮でござい、やした」と詫を言ふ

「爾う」又向直つて「ぢやア行つてた呉れかね」

齊の笑顔に

「えゝ、參りやすとも、したがその手紙は」

「此處に持つてゐるの」

「たや／＼最う御持參で」

「えゝ、アノ間の好い時にお前にお頼みしようと思つてね」

「そいつは御執心……エナニ、御念の入つたことだ」

與市は苦笑をしてゐる

雪江は人に見られるのを怖るゝもの如く、盧呂々々しながら帶の間を探つた取出して渡したのは米糊で固く封をした一通と、何やら少さく縮緬のふくさに包んだものであつた。

「是をね、御本人の御手許へ直々に差上げて御返辭を申上げてた呉れな」

「へえ／＼畏まりやした」

「それからお願だが這麼事が表の御役人衆や朋輩に知れると大變だからね萬望極內々に……可いかい」

「ヘイ、それやア最う蛇の道は蛇、惚別色事の媒介は

「これ／＼雪江どのや何をしてゐでなさる」

突然肝走つた聲が背後に聞えた。

「奥樣がた待兼ねでござんす、早う其花を持つてお越しな」

雪江はびつくりして身を起し栞戸所に突立つて意地惡な眼を輝かしてゐるが年寄の玉の井、いつも白髮を染めて若粧りをしてる老女であつた

與市は急いで手紙を包と懷中に捻込んだ。素知らぬ顏で鍬の尖からばつと立つ隔炎、その影を極めて蜜蜂がブーンと飛ぶ

梅は五八の浪士と共に市が谷の定火消屋敷を出た。前に二人後に三人、嚴重に監視の眼を注ぎつゝ、逃出さば直ちに斬りつけて生きながらのなますにすべき心構へ、刀の柄を握りながら護送するのであつた。

が當人は一向平氣なもので懷手をして歩調輕くすたすた行く。時には大欠伸時には鼻唄、現在の我が今いかなる運命に囚はれつゝあるか、前途にどんな恐ろしい惡魔が牙を鳴らして待ちつゝあるかそんなことは一向無頓着である。市ケ谷見附から這入つて九段坂を下りて神田を東へ兩國に出て橋を渡つて本所四ッ目の酒井屋敷へ着いたのは、恰ど夕餐過ぎの五ッ時此處が羽後庄內藩十七萬石酒井左衛門尉の下屋敷で當時幕命に依つて新徴組の宿舍と賄方とを承つてゐたのである取も直さず浪士の梁山泊血にうゑた幾百頭の虎は平生此の穴に籠つて鋭い爪を磨いでゐたのだ

樹徳院殿 今年新盆に相當致し候も提灯その他の御寄贈は甚だ勝手ながら御遠慮申上候
白井博之

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋 ㊇ 釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番 一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

平町舊城跡 **青沼醫院** 電話四〇三番

平町田町 **赤心堂病院** 電話四七五番

平町田町 特約店 廣瀬支店 電話五四番

醫藥學大家實驗證明せる
腎臟病新藥 ネオ子フロン
急性及び慢性腎臟炎に服用して最も優秀なる効果顯著なり
價格 一圓五十錢、參圓、五圓
代理店 平町五丁目角 山野邊藥局 藥劑師 山野邊東次郎

今回左記に移轉しましたから御通知申し上げます
平町南町七十四番地（萩原齒科醫院東隣）
福島民報平支局 山田磐麿 電話六一二番

診療開始
外科 花柳病科 專門 木村外科醫院
平町六丁目橫際（元〇久材木店跡） 電話三〇九番
入院自炊ノ便アリ

改正 片濱乘合自動車時間表

平發	江名發
五時三十分	五時三十分
六時三十分	七時
八時	七時五十分
九時	九時二十分
十時	十時三十分
十一時	十一時五十分
十二時五十分	一時
一時五十分	二時
三時	三時三十分
四時	四時四十分
五時二十分	五時四十分
六時三十分	六時四十分

平のりば 四丁目和泉屋前 新川町車庫
江名のりば 沖見屋 電話十四番 松屋
鈴木片濱自動車部 電話二一七 車庫呼出 電話一四二

◇映畫界を震駭せしむ大雄編◇
幕末異聞 地雷火組大會
舊盆特別大興行
文豪・大佛次郎原作 巨匠池田富保畢生の大作
河部五郎、大河內傳次郎、尾上多見太郎、葛木香一、桂武男、酒井米子、櫻木梅子、川上彌生
御期待の第三編は愈々封切 第一編、第二編再度上映
解決編
地雷の爆發、夏繪の死、お吉は死を賭して地雷火の製造、お吉が點けた導火線は庚申堂に矢の如く、桂の生死？
舊盆 十四日 十五日 十六日 十七日 ヒル ありります
八月廿七日より 高級常設 平館 電（四六六）

人口激增 生活不安 店員ノ覺醒！
選べ！
一、將來生活ノ安定ヲ
一、模範的組織ニ依ル營業方針ヲ
一、擴張…進力アル…商店ヲ
最モ進歩セル店員待遇法ト右要件ヲ完全ニ備ヘテ……
◇店員ヲ募集ス
一小店員十六歳以下 十名（
一店員二十二歳以下 十名
希望ノ者ハ左記ヘ照會又ハ來店ヲ乞フ（旅費當店負擔）
合名會社 つるや呉服店 店主 田舍者（平出身）
三ノ輪店（南千住三ノ輪 電淺草一四九九番）
町屋店（三河島町町屋三 電下谷近日開通）目下建築中十月一日開店

開業披露
各位の御奬めにより 洋食部開業
▽コックは東京から一流の
▽原料は特に精選吟味
やぶそばと同樣多少に不拘ず御用命を乞ふ
食堂完備――配達迅速
二十二日開業
平町新田町 やぶ洋食部 電話一四一番

お盆三日の天氣 大体は降らぬ
けさの地震について 小名測候所發表

地獄の釜の蓋が開くと言ふ今日はお盆の十三日、愈々明日から三日間磐城の天地は歡樂の海と化すが例年お盆には多少の降雨があり殊に今年は土用中全く梅雨氣分に終始してゐたので裝凝らして當日を待ち焦れてゐる踊子連中の氣が揉める事一通りでない小名濱測候所の觀測に依れば

「今朝午前三時十一分四十七秒一から八分一秒間當地方は南北千ミクロン東西二千二百七十ミクロンと言ふ可成の強震に襲はれたが被害はない尚盆三日の天候は目下の處では快晴らしく想はれるが土用中の樣な天候である爲夕立があるかも知れない流球南方に颱風があり此の影響で十六日夜は多少の降雨を見るかも知れないが先ず快晴に過ごすことが出來得るでせう」云々

とあるから踊子連中は安心が出來る譯

印紙稅檢查
平稅務署の 違反者は增加

平稅務署では去る十八日から二十一日まで管內全部の印紙稅檢查をなしたが檢查總件數は二萬五千五件で前年に比し三萬七千八百五十件の大減少であつた、これは稅法改正の結果仕切書、運書等の印紙稅が免除されたゝめである、違反檢擧は五百九十三件で前年に比し却し六十件の增加であつたが違反種別左の如し

通帳二百四十七、判取帳百七十九、其他百六十七

本工事はせなくとも 毫も心配は無い
九月三日で完了する 傾城墜道の改修

常磐線湯本綴間、傾城トンネルは本年三月十二日內部龜裂を生じたので鐵道省では調査の上六月廿八日第一期工事に着手したのだが工事中またまに

龜裂を生じ 引續き第二期改修工事をなしてゐたがこの間仙臺礦山監督局及び鐵道省から龜裂原因の調査に來郡し鐵道側では全力をあげて第三期工事に着手しレールをアーチ形としトンネル內に吊り上げを施した結果良好なる成績をあげ最早汽車の運行に差支なき見込みがついたので第三期工事も九月三日で完了することとなつたが鐵道省では尙龜裂原因調査をかね水戶運輸事務所の測量隊十名を殘し斷面測定機を据付け地下の變動に伴ふ

地上建造物に及ぼす 測壁及アーチの變化等の調査をなすがその結果によつて本工事に着手する筈であるが現在のところ本工事の必要はないものと認められてゐる、因に放修工事費は約

平上三坂線 漸く完成
沿道民大喜び

平土木監督所では繼續事業として管內路線に亘り大改修工事をなしつゝあつたが北好間村の一部を除いた上二坂平線延長八里八町餘はこの程完成して自動車交通が自由となり同方部の物資運輸は非常に緩和されるに至つた、なほ該路線と成行してゐる石川湯本線延長六里十九町は數日にして完成することになり、從つて同所管內各路線は全く面目を一新するに至り各方面の交通は全く自由となるに至つたが同時にこれに依つて受ける各村落の利益は莫大なもので、地方開發に至大の便益を齎すことになつた

五人組賭博
一網に檢擧さる

石城郡湯本町字八仙、入山炭知坑夫小島一郎(三六)方で二十五日午後三時坑夫垂石松太郎(四四)石倉松次郎(四五)三瓶隼人(四六)住所不定賭博前科十二犯大津藤次郎(四四)の五人が車座になり現金をかけて賭博中を平署員に踏込まれ一網打盡に檢擧され目下嚴重取調べ中

手附金橫領
平署刑事出張 日覆の外交員

平町字白銀町日覆商大島勇八方外交員和歌山市港北町太田啓三(三二)は去月十五日無斷に逃走行方を晦ましけが其の後七月廿六日四倉町大黑屋方に至り日傘の注文を取り手付金八圓五十錢を橫領したのを手始めに伊達郡柳川町村井朝日堂から八圓五十錢福島市上町神野一郎から金十圓其の他前後數十回に亘り現金約六百餘圓を詐取橫領しゐる事平署に探知され廿五日夜信夫郡飯坂溫泉に於いて美妓數名を侍らし大豪遊平中署の手配に依り飯坂署刑事の爲めに逮捕されたが平署平澤刑事は廿六日朝犯人引取りに出張した

詐欺の告訴
魚の取引きに 北海から平へ

北海道留萌郡留萌町大字三泊村鰊問屋三國屋事三國藤次郎は此の程平町字一丁目富谷利喜松を相手取り平署に詐欺橫領の告訴を提起したが理由は被告利喜松は今春五月中自分は平町で魚問屋を爲してゐるが身欠き鰊二十三個を送れと藤次郎方に電報したので藤次郎は請求されるまゝに送荷したが其の儘何んの音沙汰もなく鰊代四百六十圓を支拂はない爲め前記の告訴に及んだものである

石城名所めぐり（三）
海に去りし夫を慕ひ 石になつた女房岩

△女房岩

夏井村大字上大越大乘坊にあり世諺に往古此の邊に松川與作といへる漁人あり漁鹽を製して生活す、或日自身舟に乘りて出でけるに日を經るも歸らざりければ其の妻大に悲しみ種々手配して尋ねたれども行衞不明なり、依つて神佛に祈願し海神を祭り夫の無事を請ふこと切なり、然れども遂に歸らずその妻益々悲しみ嘆く々居ながら石になる、其の石今尙は山嶽にあり

△顯藏七淵

神谷村大字鎌田弘源寺の東麓を顯藏主淵と稱す、傳へ云ふ、此の近傍、浪人夫婦住めり、石森の會下に顯藏主といふ僧ありて此の浪人の親父なり、然るに此の僧浪人の妻に懸想し屢々迫ると雖も婦人は堅く貞操を守りて應せず、然れども僧の毒手を恐れて遂に夫に告ぐ浪人某大いに怒り彼の僧の來るのを待ち僞つて他出の体をなし、例の如く僧來りて妻に迫るを見るや跳り出でゝ之れを殺害し以て其の死体を川岸に放棄せり、その後浪人所用ありて此處に至るや、妖怪その目に遮り遂に浪人狂氣して死す、依つて僧の祟りとなし顯藏主淵とぞいふ

△湯本溫泉の由來

人皇十二代景行天皇の御時陸奥を以て東夷と稱し夷賊猖獗を極めしことあり當時近江國日野郷に岩那磯那と呼ぶ二人の者偶々此佐波古の里に來りし一羽の丹頂鶴遙南方より飛び來り叢林の中に下りたる故二人は何故ならんと注目すれば一條の溫氣の立昇るを見る、近寄りて之れを檢せしに鶴は夷賊の流矢に負傷したるを療じゐたり、二人は大いに同情して親切にその傷部を洗ひやりければ一週日を經ずして全癒したりさて二人は鶴に向ひ種々慰諭して放ちしに三週日の後婉娟たる美人來りて稻粟及び一卷の神書を授け去りぬ二人は不思議の余に思ひて之を展き見るに、佐波古の溫泉は忝なくも御神の御造り遊ばされ給ふものなりと神文にて、汝等此の地を開き快く天壽を完ふし且つ住民の生存を扶翼すべしとなり、玆に於て二人は溫泉の近きに草屋を作り且つ叢林を開拓して稻粟を耕作し子孫に至り住宅を增築し益々溫泉の發展を期したり、二人は即ち湯本溫泉の草創者にして、その鶴の傷部を洗ひし所を鶴の湯と名付けたりといひ傳ふ

△一樂といふ人

平町五丁目の人にして一樂は山內宗春の號なり、山內氏の祖玄碩初め岡崎公に仕ふ、衛士助定逝と稱す、故あり、その妻の弟榊原康政の家に寄食す、後望を壯途に絶ち醫に隱れて名を玄碩に改む、一樂はその孫なり世々醫を業とし家聲を墜さず一樂傍ら彫刻を能くす明治十年內國勸業博覽會にその彫刻せるもの數品を出し皆美術館に入り鳳紋賞を賜はる、十一年六月二日病沒年五十九。

事業と人（九） 此の家此の兄弟
盤石の上に築かれた 豪商釜屋商店

東北有數の富豪、諸橋久太郎翁の經營する釜屋商店は基礎の強固、在庫品の豐富良品廉價の三大要素を具備せる點に於て絕對他の追隨を容さざる强と誇りとがある、店頭に顧客の市をなし三十數名の店員が大童へとなつて立ち働らく目まぐるしい光景は寧ろ

壯嚴 である、良品廉價をモットーとする釜屋商店の暖簾は東京以北遙かに北海道を風靡し、到る處根つよき地盤と信用を博しゐることは想像の遠く及ばない流石の大豪商である當主久太郎翁は近來いささか健康を害し所謂晴耕雨讀の閑日月裡に靜養怠りなく若主人諸橋守治氏とその直弟元三郎氏とが專ら營業の第一線に立つてゐる、兄弟兩氏とも

早大 出身の溫厚な人格者にして德望高く常に嶄進の營業法を採用し、社會共存の實義を現實に示してゐる青年紳商である、若主人守次氏は既に人の知る如く德才兼備の紳士にして嚴父久太郎翁の訓教に叛かず內克く家を治め外ひこに接するに和を以てする極の如才の無い仁である

若し 下世話で云ふならば氏こそ所謂「親に優る筍」にして氏の進む將來こそ必らず驚異的の何ものかゞなければならない、多くの店員、出入りの者からは慈父の如くに慕はれ幾多の小作人から神の如くに尊ばれてゐる其の一事は以て氏の全人を窺知するに容易であろう、常に社會

公共 の爲めに意を注ぎ自ら私財をなげうつて惜まざる等幾多の善事を總行は期せず社會衆人の尊敬となり德望となつて現はれてゐる、謙遜の美德に富むだ氏は自ら榮譽を望まないが衆望の集まる處、日比谷壇上に送らるゝの時も必らず遠くはあるまい、その令弟元三郎氏は專念店の

支配 に寸暇なき奮闘をつづけ和氣靄々の裡に令兄を援けてゐる事は此の兄にして此の弟ありと云ふべく、盤石の上に築かれた大釜屋商店の礎は益々堅實に榮え行く事であろう。

湯本の青年 念佛放送
來月仙臺で

石城郡湯本町水野谷青年團大平國雄外十一名は來月五夜仙臺放送局から石城民謠を放送する事になつたが曲目はじやんがら念佛、湯本溫泉節、目出度その他で目下盛んに練習中である

眼前漁群豐富で 餌付きで不良
終末期に近いて來た 石城沿岸の漁況

磐城丸第十八回鰹漁場調查は二十日午前八時小名濱出帆漁場に向つた處が距岸八九十浬の海區には鮫付その他の魚群甚だ多きも餌付が不良であつた、翌二十一日には小名濱東微南七十五浬海區にたいて午前十時から十一時半までの間に鮫魚群にあつたが餌付不良で鰹二百尾のきん獲に過ぎず二十二日は金華山東南約百浬の海區にて午前八時より午後五時の間に亘り鮫付大群の數群に會つたが何れも餌付不良で大小混合鰹約五百尾を釣獲したのみであつた、尙距岸百三十浬內外にも極めて魚群が多かつたが餌付不良であつた而して何れも天然餌料豐富で同船は今回の出帆に際して中羽鰯十三樽背黑鰯五樽を準備したに過ぎず總漁獲約八百尾を得て二十三日午前十時歸航した以上の事實に徵し同漁場において背黑鰯を持參すれば相當の漁獲を得る見込である

硝子戸を衝き破り 店頭に舞ひ込む
無免許運轉手の 自動車大暴れ

草野村大字赤沼生れ當時平町二町目尼子自動車部運轉助手松本梅吉(三二)は昨十五日午後零時頃無免許で自動車を運轉鎌田町から平驛前に向つて疾走驛前曲線に差掛つた際突然運轉を誤り田町牛久洋服店の店頭に衝突店頭ガラスを破壞して店內に飛込んだが幸ひに死傷者なく梅吉は目下平署に引致嚴重な取調を受けてゐる

郡下町村長會

町村長石城支部會では明廿八日午後一時から舊石城郡衙に於いて臨時協議會を開き御大典記念事業其の他の協議を爲す筈である

鯉を釣る會
磐崎農事組合で

石城郡磐崎村下船尾農事實行組合主催釣鯉大會は來る九月二日から四日まで三日間同村大字下船尾杭出作溜池に於て開催するが會費は一圓であるなほ同池の面積は一町三反步で放鯉數二千であらうと

北辰妙見で 假裝行列
九月四日大祭

平町白銀町北辰神社大祭は來る九月四日執行する事となつたが當日は假裝行列等の催しもあり優秀なものに審査の結果賞品を呉れる筈であり尙は櫓を上げ平若衆連の吹込むだレコードを以て蓄音機と併せ盆踊り等の催しもあり賑ひを呈す事

平商業會議所 愈々設立の具体化
實業同志會が奔走し 一般に囑望さる

平町實業同志會では平町における商工業の著しい發展に鑑み商工會議所の必要を認めこれが設立に就ては寄り〳〵協議をなしつゝあつたがその後財界の動搖を來しこれがため一時商工會議所問題も頓挫の形にあつたが最近漸く財界安定についたので關係者間ではそれぞれ考究をなしつゝあるが近く同志會役員會を開き何とか具体案を作製するものゝ如くであるが或は取敢ず商工會議所設立の前提として現在の實業同志會を刷新欠員中の役員を補充し新陣容を整へ然る後商工會議所の設立に向つて進むのではないかと觀測されるがいづれにしても同問題は近く具体化される模樣である

一の井の謝恩 平町

田町一の井洋食部顧客謝恩デーは各方面から非常な人氣を呼んでゐるが此の第一回抽籤は昨廿五日午後二時嚴正に擧行したが抽籤結果明廿八日本紙々上に發表する筈

紅燈街

●久本から出た新妓はきく江、いく子姐さんの仕込みで藝は頗る達者だとあり白粉の付け工合にも肯かれる初々しい妓、どうぞ宜敷ふ。

かみなり

◆此頃營養食だなんて日に三度大根おろしで飯を食つてゐるのがあれば、トマトには各種ノヴイタミンが含んでゐると、あんまり食つて赤いりをたれてるのが居る。妙なことが流行りだしたもんだ◆九十三まで生きた大倉さんは毎日鰻を食つたが鰻では身體より懷の方に利き過ぎるといふので、ナアニ鰌だつて鰻だ牛玉だからと、日曜に田圃に出かけて安來節の踊りの要領で鰌スクヒをやつてるのもある◆ところが八ツ目鰻なら鰻の四倍の效能があるといふから其理由をきく、とうなぎは二ツ目だから八ツ目なら四倍はアテにならないが、昔から八盲症に利くといはれてるが、滋養があることは確だ、處が平では之れを食膳に出す料理屋もないのは遺憾の至りだ、駄目といふのは八ツ目の目なんてシャレどころか、實際美味いもんだせ

平組合藝妓一覽
（昭和三年八月廿五日現在）

屋號	電話	藝妓
玉川	電一六八	小さん、宇佐子、喜代治、小糸、愛之助、茶目、鶴江、政榮、玉千代
谷口（半玉）	電八番	秀勇、榮勇、正勇、千代駒、文勇、お染、いさみ、みどり
甲子	電四番	升美、光子
三好家	電三五〇	光惠、琴治、松太郎、かきつ、よし子、たより、咲子
久本	電二〇九	ひさご、いく子、玉子、清奴、久松、たはん、喜久榮
山形家	電一二七	小歌、君香、千代龍、いろ子
二葉家	電二六四	松葉、富葉、ゆり葉、照葉、秀葉
米京	電一一九	富彌、金時、京子
橘家	電一〇二	千代助、妻子、花香、千代香、若千代、鹿の子、千代丸、ちやら子
竹廼家（半玉 半玉）	電七三番	小つや、小菊、おかる、た鯉、小峯、竹千代、磯壽、お蝶、香羽、花蝶、福奴
（半玉）		すみれ、にかめ、た里、鶴千代
三島家	電二二一	八千代、藤八、春子、千成、千賀子
吉野家	電二六〇	長松、一寸平、小柳、五郎、つばめ、金太郎、千松
開花（半玉 半玉）	電二五〇	高助、友奴、〆葉、花子、駒吉、梅香、花丸、桃子、貞丸
湖月（半玉）	電三四五	小南、月子、よみ助、助六、豆蝶、藤丸
伸家	電一五二	小清、市太郎、福助、勘平、一寸助
福清	電四三三	とん子、玉香、金彌、喜代子
林家	電二一六	小六、友江、光若、榮太郎、玉枝、照代
品澤	電三二〇	小きん、小光、まり子、蝶々、都、三太郎
眞佐乃家（半玉）	電三五四	〆太
榮家	電三〇四	榮、その江、禮子、富士子、かづ子
叶家（半玉）	電八〇三	小玉、美代治、照子